

SORA

web magazine 2019.sep. vol.117

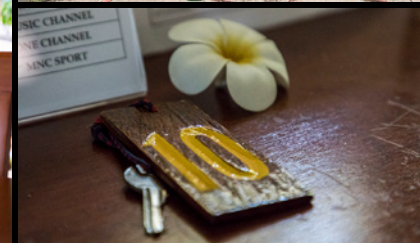
Indonesia ^{Travel} Lembbeh

Welcome to SOLITUDE Lembbeh Resort

Photo & Story : Kyu Furumi

インドネシアの大人気ダイブサイト、レンベに新たなリゾートがオープンした。その名もソリチュード・レンベリゾート。パラオやフィリピンの人気クルーズ、ソリチュード・ワンの姉妹リゾートなる大人の雰囲気漂うラグジュアリーリゾート、堂々の日本初公開!

MAP
CLICK!



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



Day 1

<ダイブサイト>

1.Nudi Falls / 2.Jahir 1 / 3.TK 3

クルーズ船ソリチュード・ワンには何度も乗船していて、数年前、最後に乗船した時にマネージャーのアンドリューや、オーナーのキットさんから「今度レンベでリゾートの運営も始めるんだ!」と聞き、訪問を心待ちにしていたソリチュード・レンベリゾートだ。まずは到着後のリフレッシュを兼ねて、近場のスロープのポイントでゆっくりとマクロ撮影。今回はあまり透明度には恵まれなかったが、ブラックシルトには相変わらずの面白マクロが盛り沢山だった。ヘアリーブロッグフィッシュと呼ばれる、毛むくじらのカエルアンコウの仲間は、単体で出合っても嬉しいものだが、この季節は産卵シーズンだったので、お腹が卵でパンパンに膨れ上がったメス個体を、小さなオスの個体が追いかけて回して求愛を繰り返しているのをあちこちで見かけた。残念ながら産卵の瞬間には立ち合うことは叶わなかったが、翌日からの撮影にも大きな期待が膨らんだ。

Indonesia
Lembah
インドネシア・レンベ





Day 2 ＜ダイブサイト＞

1.Critter Hunt / 2.Kareco Batu / 3.Bianca

翌日まず向かったのはクリッターハントというポイント。こちらも泥のスロープにサンゴが点在しているような、レンベのオースドックスとも呼べるようなポイントだ。所要所要所にサンゴを覗いていくと、可愛いサラサハタの幼魚を数個体見つけることができた。個人的にこの幼魚はとても好みの被写体で、それぞれ大小の差はあるが、小さければ小さいほど可愛く、白色も美しい。時間をかけて撮影することができたので大満足、と思っていたらガイドが激しく手招きしている。小さな海藻の上にあったのは通称シムランスと呼ばれる極小のエビだった。はっきり言って茶色のチリや埃にしか見えないが、撮影しているとしっかりと目も見える。面白い生き物がいるものだ。自分で発見できる気はしないが、まあガイド頼みでもここはよしとしよう。少しの間撮影をしていたら、海藻の下をトラギスが行ったり来たりしていて、面白い写真になったような気がする。ウミウシもバラエティー豊かなラインナップで楽しませてもらった。



Day 3

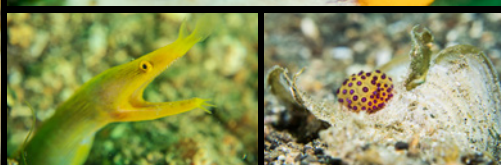
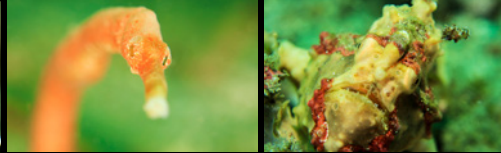
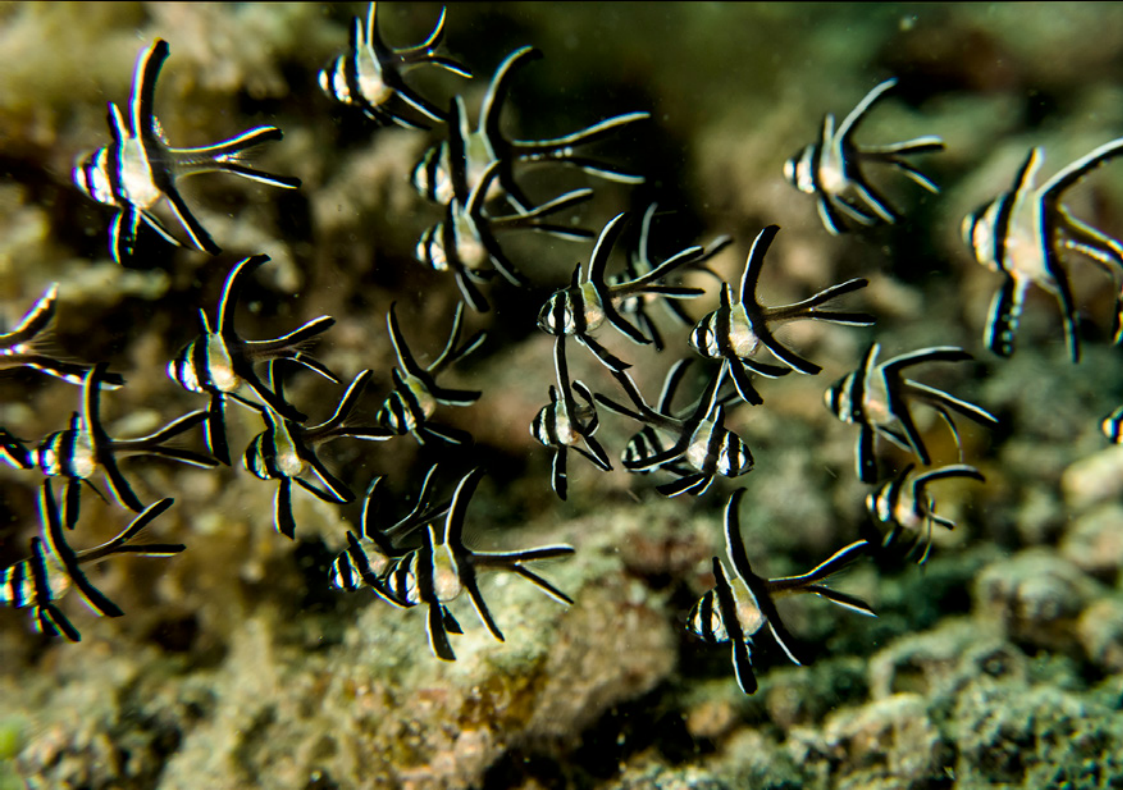
<ダイブサイト>

1. Angel's Window

2. Serena Patah

3. Serena island

この日のファーストダイビングはレンベを代表する地形ポイントのエンジェルズ・ウィンドウへ行ってみたのだが、生憎の透明度と、なかなか大きなうねりのため地形は断念し、マクロ撮影に集中。やはりここでもウミウシの仲間は多く、個人的に好きなトゲトゲウミウシや、カラフルなミノウミウシなども数個体発見。その後はレンベ海峡の中州のように存在するセレナ島の周辺へ。ここでは米粒ほどのイボンテグリの幼魚にも出会うことができた。しかしよくこんな小さい魚を探すことが出来るなあと、本当に感心するしかない。ピコピコと動く可愛いその姿を存分に楽しみながら撮影を続けた。その他、レンベの代表的魚のバンガイ・カーディナルフィッシュの群れや、クマドリカエルアンコウ、ニシキボヤに乗るウミタケハゼなど、フォトジェニックな生き物たちと出合った。うん、やっぱりレンベはすごいなあ。





Day 4

<ダイブサイト>

1.Pulau Abadi / 2.Pintu colada / 3.Pantu Parigi

ここまでスラウェシ島側で潜ることが多かったので、この日は対岸のレンベ島沿岸を中心に潜ることになった。ブルーリングオクトパスを頻繁に見かけるというブラウ・アバディでは狙い通り、見事に擬態しているブルーリングオクトパスを発見。電飾のように体の色を変えながら伸び縮みする姿はいつ出会っても面白い。現地のガイド人が「ピカチュウ」と呼ぶツノザヤウミウシの仲間も個体数が多いようだ。卵をお腹いっぱい抱えるモンハナシャコにも3個体ほど遭遇したのは嬉しい驚きだった。地球外的生命体のような不思議な目を持つモンハナシャコが、卵塊を文字通り抱え込んで守っている姿は本当に美しくたくましい。愛情という概念が僕らと全く同じかどうかは知る由もないが、やはりこのような行動を目の当たりにすると心が振れる。と、ひとしきり撮影をし、ふと何やら気配を感じて顔を上げると、黒いハナヒゲウツボが身体をしなせながら僕に向かってきた。英名リボンイールとはよく言ったもので、まさに新体操選手が扱うリボンのような面白い泳ぎ方だった。うーん。ラッキーが続くなあ。



Day 5

<ダイブサイト>

1.Nudi Falla / 2.Aer Bajo / 3.Jahir 1

まだまだ出てくる面白マクロ生物たち



Indonesia
Lembah
インドネシア・レンベ

tsumi-shima
ダイバーの夢をつまみあげていく





Indonesia
Lembah
インドネシア・レンベ



Day 6 <ダイブサイト>

1.Bangka, Sahaung / 2.S Bangka, Batu Lihunu / 3.TK 3

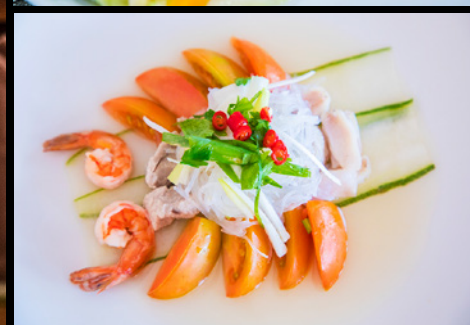
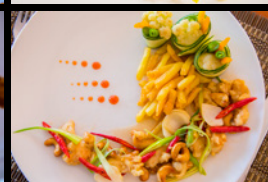
最終日を迎えたこの日はレンベ海峡を北に抜けた所に位置するバンカ島へ遠征することになった。前日までは沖合の風が強くアクセス不可能だったのだが、最終日に見事なまでの風になってくれた。ボートに乗り込み一時間ほどで到着するバンカ島。これまで潜ってきたレンベのマックポイントとは手の平を返したような、美しいコーラルリーフと華やかな群れが出迎えてくれた。もちろんマックダイブでは興味深い生き物を沢山見ることが出来るし、時間がいくらあっても足りないほどマクロ撮影に没頭できるのだが、やはり華やかで青い海は理屈抜きにいい。バンカ島への遠征は、海況次第・リクエストベースが基本で行われるが、グループで訪れる場合は、ぜひ足を伸ばしてもらいたい素敵な海だ。バンカでは2ダイブ潜り、レンベへ戻っていいよ最終ダイビング。そう言えば今回はまだミックスオクトパスに出合っていないなあということで、可能性の高いTK3へ向かった。お目当のミックスは現れないが、フグとアジ幼魚の面白い関係を見させてもらったり、ウミウシ、ハリセンボンなどをじっくりと撮影して70分ほどした頃だった。そろそろ浮上体勢に入ろうかと思ったところで、僕を呼ぶライトのシグナルが……。最後の最後で出ちゃいました、ミックスさん。なんて役者なんだろう。レンベの海はやっぱりすごい!





Solitude meal collections

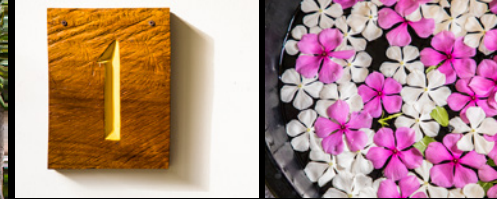
ソリチュード・レンベリゾートでの食事は、基本的に三食ともリゾート内のレストランでとる。今回は滞在も長かったので、かなり色々な食事を堪能させてもらったが、味はもちろんのことどれも盛り付けもオシャレで美しい。ダイビングも充実し、食事も完璧。これは言うことなしです。



Indonesia Lembah

インドネシア・レンベ



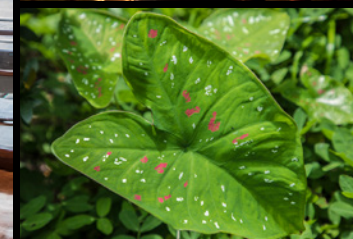
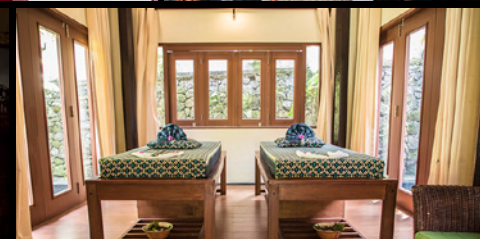
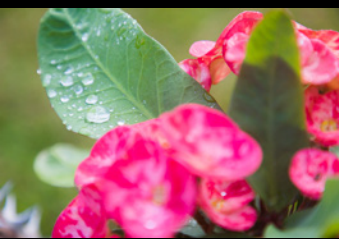


Indonesia
Lembah
インドネシア・レンベ



美しく隠れ家のようにでありながらあたたかい

完成間もないソリチュード・レンベリゾート。正面はレンベ海峡、周辺は美しい緑に囲まれた静かで心休まるリゾートだ。巨大なリゾートでは出せないような落ち着きと安心感は、カップルでもグループ、ファミリーでものんびり快適に過ごすことが出来るだろう。海を望むプールや本格的なスパも併設。不定期で開かれるBBQナイトも嬉しい。ダイビングガイド陣は地元出身でバリバリキャリアを積んだベテランガイドがずらりと揃う。現在日本人ガイドは居ないものの、ゲストリレーションスタッフとして、メナド経験の豊富な森ミキさんが常駐しているの言葉の面も安心だ。心ゆくまでレンベの海と素晴らしいリゾートライフを堪能してもらいたい。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく

